

司式：佃 雅之
奏楽：橋本恵美子

前奏：「御神の御旨は常に行われ」(J.G.ワルター)

招詞：希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。(ロマ5.5)

讃美歌：207「ほめよ主を」

罪の告白・赦し

聖霊を求める祈り

朗読聖書①ヨナ書 3:1-10

◆ニネベの悔い改め

01 主の言葉が再びヨナに臨んだ。

02 「さあ、大いなる都ニネベに行って、わたしがお前に語る言葉を告げよ。」

03 ヨナは主の命令どおり、直ちにニネベに行った。ニネベは非常に大きな都で、一回りするの
に三日かかった。

04 ヨナはまず都に入り、一日分の距離を歩きながら叫び、そして言った。「あと四十日すれば、
ニネベの都は滅びる。」

05 すると、ニネベの人々は神を信じ、断食を呼びかけ、身分の高い者も低い者も身に粗布をま
とった。

06 このことがニネベの王に伝えられると、王は王座から立ち上がって王衣を脱ぎ捨て、粗布を
まとして灰の上に座し、

07 王と大臣たちの名によって布告を出し、ニネベに断食を命じた。「人も家畜も、牛、羊に至
るまで、何一つ食物を口にしてはならない。食べることも、水を飲むことも禁ずる。

08 人も家畜も粗布をまとい、ひたすら神に祈願せよ。おのおの悪の道を離れ、その手から不法
を捨てよ。

09 そうすれば神が思い直されて激しい怒りを静め、我々は滅びを免れるかもしれない。」

10 神は彼らの業、彼らが悪の道を離れたことを御覧になり、思い直され、宣告した災いをくだ
すのをやめられた。

朗読聖書②ルカによる福音書 11. 29-36

◆人々はしるしを欲しが

29 群衆の数がますます増えてきたので、イエスは話し始められた。「今の時代の者たちはよこ
しまだ。しるしを欲しが

30 つまり、ヨナがニネベの人々に対してしるしとなったように、人の子も今の時代の者たちに
対してしるしとなる。

31 南の国の女王は、裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであ
らう。この女王はソロモンの知恵を聞くために、地の果てから来たからである。ここに、ソ
ロモンにまさるものがある。

32 また、ニネベの人々は裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定める
であらう。ニネベの人々は、ヨナの説教を聞いて悔い改めたからである。ここに、ヨナにま
さるものがある。」

◆体のともし火は目

33 「ともし火をともして、それを穴蔵の中や、升の下に置く者はいない。入って来る人に光が
見えるように、燭台の上に置く。

34 あなたの体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るいが、濁ってい
れば、体も暗い。

35 だから、あなたの中にある光が消えていないか調べなさい。

36 あなたの全身が明るく、少しも暗いところがなければ、ちょうど、ともし火がその輝きであ
なたを照らすときのように、全身は輝いている。」

祈祷

天地の創造主にして全能なる活ける真の神、あなたの聖名を褒め讃えま
す。新しい月が与えられ、そして、あなたの愛と憐れみによって、また私
たちの生活の中に『主の日』を備えてくださいましたことを心から感謝致し
ます。

主よ、あなたは私たちに、“父よ”、“父なる神よ”と呼ばれることを恥とは
せず、むしろ、これを喜びとし、今日も私たちを目覚めさせ、“礼拝せよ”
と、キリストの御体であるこの会堂へ、そしてライブ配信へと呼び集めて
くださいました。この大きな恵みを心から感謝致します。

しかし、私たちはあなたに呼び集められるに相応しくない者でありまし
た。日々の生活の中で自分の愚かさから抜け出すことができず、今、語っ
てはいけない言葉を語り、聞かなければならないあなたの言葉に耳を塞い
だ私たちでありました。それでもあなたは、そのような私たちであるから
こそ、“悔い改めよ”と、私たちを招き今日も御言葉を語り聞かせてくださ
います。私たちが、そのあなたの選びと招きを信じて、悔いし砕けし魂をも
って、今、御前に沈黙し、あなたに全てを明け渡すことができるようにし
てください。

特に今日の礼拝は、『世界聖餐日』、『世界宣教の日』としてお献げします。大
祭司であるキリストが私たち罪人のためにその身を犠牲として献げられ、
十字架にあつて血を流され、そしてまた今、天にあつてその恵みを私たち
に与え続けてくださっていることを、私たちが鮮明に思い起こすことがで
きますように。私たちが、今日戴く命のパンと、贖いの血潮によって心を
新たにすして、“イエスは主なり”と信仰を言い表すことができますように。そ
してあなたが与えてくださる大きな恵みと執り成しの祈りの中で生きること
ができるようにしてください。私たちが聖餐を真の力として、宣教の業
に励むことができますように導いてください。

平和の主よ、あなたの平和と正義がこの世に遍く突き通されることを切
に祈り願います。神よ、どうかあなたの御力をもって、私たちの生きるこ
の世界に、また私たち一人ひとりの生涯に介入してください。今のこの混
沌とした世界の、そしてまたこの国の状況の中にあつて、あなたの御言葉
を信じ、その御言葉によって立たされる者に相応しく生きる道を指し示し
てください。私たちがあなたから託された平和の使者となって働くことが
できますように。主よ、苦難の中にある人たちを顧みて、既にあなたの与
えてくださる希望に生きることができるようにしてください。私たちが今、
戦禍の中に置かれた人たちのために祈りを合わせ、寄り添い続けていくこ
とができるようにしてください。

私たちの主よ、この教会の歩みを支え導いてください。修養会をはじめ
秋の教会活動を聖霊の導きによって支えてください。私たち一人ひとりが、
キリストをこの世に証しする者として、生き活きと教会活動に参与をでき
るように導いてください。また、その準備のために働く者をあなたが助け
てください。

神さま、今日この場の礼拝を共にできない兄弟姉妹のことを覚えて祈りま
す。病や老いの中にあつて寂しさを覚えている友、深い悲しみの中にある友、
生きる力と希望を失っている友のために祈ります。あなたが聖霊によって臨

み、必要な時と所にあつて慰めと励ましとを豊かにお与えください。

主よ、今日の説教者を感謝致します。大谷昌恵牧師が聖霊の導きを豊かに受けて、あなたの口となり、福音の消息を力強く語られますように。そしてまた、聞く私たちの心にあなたの教えが深く届きますように、あなたの助けを祈ります。

主よ、今朝、日本の、そしてまた世界の各地で献げられている礼拝が、あなたへの感謝と賛美に満ちたものとなりますように。

これらの祈りを主イエス・キリストの聖名によって祈ります。アーメン。

讚美歌:413「キリストの腕は」

説教 「人を救う光」

大谷昌恵

平日に教会へ来る時、私の自宅の最寄り駅の前には、マイク持たずに自分の思うところを話している政治家がいます。ピークを過ぎたとは言え、まだ通勤時間帯ですから、その言葉に足を留めて聴き入る人はなく、皆足早に通り過ぎていきます。歩いている足を止めてまで誰かの話を聞くということは自分に興味や関心があることでなければなかなかできません。

悪霊を追い出したイエスの業を見た群衆は驚嘆し、そしてイエスの話を聞き始めます。その群衆の数は次第に増えていき、その人々に対してイエスは更に話を始められます。それが本日の箇所 11:29 以下です。その群衆の中には、イエスを試そうという下心を持った者たちや、声高らかにイエスの母を賛美した女性も足を止めたままそこにいたことでしょう。そんな多くの群衆に対してイエスは、「今の時代の者たちはよこしまだ」と言い放します。「よこしま」とは漢字で書けば「邪悪」の「邪」という字で、「行いや考えが正しくない」ことを意味します。つまりイエスは、「今の時代に生きる人たちは、正しくない」と言うのです。そして彼らが「しるしを欲しがる」者たちだと言います。

「しるし」とは、いったい何でしょう。それは特にファリサイ派の人々が癒しや悪霊追放といった「しるし」以上の天からの「しるし」を、イエスを試そうとして求めたことを指しています。イエスはこのことに強く抗議しているのです。天からの「しるし」とは一体何であるかと言えば、それは既に 11:20 で学んだこと、つまりイエスが「神の指で悪霊を追い出している」事に当ります。普通では考えられないような奇蹟や力ある業が為されていること、そのことが天からの「しるし」であり、それを為さっているのが神の子イエス・キリストであり、それは既に与えられています。

イエスは「このように邪悪な時代の人々に対しては、ヨナのしるし以外には何のしるしも与えられない」と説きます。ヨナは旧約聖書『ヨナ書』の主人公預言者ヨナであり、本日の旧約聖書はそのヨナ書の一部分を読んで頂きました。北イスラエル王国の預言者ヨナは悪の数々を行っていたアッシリアの首都ニネベに行き、「悔い改めなければニネベは滅ぼされる」と人々に伝えることを神から命じられます。しかしヨナは最初、その神の命令に背いたため、大きな魚に呑み込まれ、その腹の中で三日三晩を過ごす事になります。そこで悔い改めたヨナを見て神は魚に命じてヨナを陸地に吐き出させます。イエスがここで言う「ヨナのしるし」とは、「預言者ヨナが魚の腹の中から生還した」ことを表しています。ヨナがニネベに赴き悔い改めを告げたことはニネベの人々にとって「しるし」となりましたが、これは過去の出来事であつて「今の時代の人々に対しては、「ヨナのしるし」とは別の「しるし」が与えられる」とイエスは言います。イエスの言う「今の悪い時代の人々」の中にも、すでにイエスが神の指で

悪霊を追い出したという「天からのしるし」を見て信じた人々は、それ以上の「しるし」を欲しがらざることをしません。しかしそれを信じることができない邪悪な人々は、更なる「天からのしるし」を欲しがるのである。

ヨナは、三日三晩、魚の腹の中にいた後に、神の命令に従つてニネベに行き、「悔い改めるように」と人々に伝えました。このことが、神の道具として用いられた魚が改心したヨナを吐き出したことで、ヨナはニネベの人々に対して「しるし」となりました。同様に、イエスは十字架での死の後、三日三晩、第一の墓場の中において復活されます。それがこれからの時代の人々にとっての「しるし」となるのです。

預言者ヨナの話の途中でイエスは、今度は南の国の女王の話がされます。これは列王記上(10:1)に出てくる「シェバの女王」のことです。南の国の女王は、ただ遠くから聞えて来る噂話だけを頼りに多くの贈り物を持って地の果てからソロモンを尋ねて来ます。そして自分自身でソロモンの賢さ確かめて、その事に賞賛を与え、自分の国へと帰つて行きます。ここで何故、ヨナの話と南の国の女王の話とをイエスがしたかといえ、**「証言は二人、三人以上の話によって確かなものとされる」という聖書の記述(申 17:6、19:15)に従つたものと考えられます。**ご自分の言葉の確かさを、こうしてイエスは人々に伝えたのです。今の時代の者たちは遠い旅をする必要もなく、自分たちの目の前で神の言葉を聞くことができるのに、それを聞こうとせず、熱心に求めようとしません。またヨナによって悔い改めを求められ、家畜までもが悔い改めたニネベの人たちのような素直な心も持っていない。そのことが審きの時にニネベの人々が立ち上がり、今の時代の人々を罪に定めるのだとイエスはおっしゃいます。異邦人であるニネベの人々をユダヤ人であるヨナが悔い改めさせ、遠い南の国の女王が、やはりユダヤ人であるソロモンの知恵をわざわざ聞きに来たという話は、イエスの話を聞いているユダヤ人たちには受け入れ易く悪い気のしない話だつたことでしょう。

しかし、ニネベの人々がヨナの伝える神の御言葉によって悔い改める話は、その場にいた人々にとっては心に刺さるものだったに違いありません。異邦人である。ニネベの人々が自分たちを審くというのですから、それは心穏やかではいられなかつたはずで、神の言葉はまさに人々にとって自ら救う光となるものであることを、ここで話を聞いた人はイエスによって教えられたのです。

イエスは数多くの譬え話を人々に語っていますが、その多くは人々の生活の中で身近なものをを用いています。話をより分かり易くするためでしょう。当時の人々にとって聖書と言えれば旧約聖書ですから、物語性のあるヨナ書や南の女王の話も、ソロモンという知恵者の話と共に分かりやすい譬えだつたことと思います。そして更にイエスはもっと生活に根ざした事柄を譬えとして用いて話を始めます。それが 33 節以下の「**ともし火**」の譬えです。これまた、「**神の言葉が人々の歩みを照らす灯だから**」とも言えます。「ともし火」、つまりランプは通常オリーブ油を用いており、イスラエルの民は常夜燈を置くことが出エジプト記(25:31-40 (ほか)やレビ記(24:4)に定められていました。つまり「ともし火」があるということは、そこに人や人が住む家があることを象徴していました。「穴蔵」とは物を貯蔵する所であつて普通は人の居る所ではありませんから、そこに貴重な油を使った「ともし火」を置く必要はありません。また「**升**」は、本来は穀物を量る器で 90 ほどの大きさだつたそうです。窓や煙突のない小さな家ではランプを吹き消すといやな臭や煙が籠つてしまうので古くて使わなくなった升を被せて消したと言わ

れています。つまり「灯の下に置く」という行動は火を消す行為を表すものです。“人々はランプに火を灯した後に、その火を消すために「灯」の下に入れることはない”ということをごここでは意味しています。ランプは灯されている間、辺りを照らすために当然のことながら燭台の上に置かれ、家の中の物、全てが照らし出されたのです。せっかく周囲を明るくするために灯された「灯」を消してしまうような愚かな者はいません。それは周囲を明るく照らすために燭台の上に置かれるものであり、更にそれによって「入ってくる人」のための助けとなるために輝かせるようにという意味を込めて「灯」の譬えをイエスは話されたのです。

「入ってくる人」というのは、もちろん家の中に「入ってくる人」がいるという事柄である以上に、“イエスの言葉を聞いて新しくキリストを信じるようになったであろうキリスト者”を指しているとも読み取れます。ルカはそのことも含めて、ここで家の中に「入ってくる人」という言葉をわざわざ使っていると言えます。34節、「あなたの体の灯は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るい、濁ってれば、体も暗い。」この言葉は人々にとって自分自身に当て嵌めて考えることができ分かり易い言葉だったことでしょう。「灯」によって周囲が明るく照らされ人々が行動できるように、目が良く見えれば人は自由に動くことができます。「全身が明るい、体が暗い」という表現は、そのような意味を表していると言えます。

当時の人々は目を光の入る部分としてではなく、逆に光を発することによって外の世界を見る明かりと考えていました。つまり、目が光を発する部分であり体の灯であるということは、その目が光を発することをしなければ何も見ることができず、人は行動を起こすことができないと考えていたのです。光を発する目が濁っているならば人は何も見ることができず「灯」の役目を全く果たさなくなってしまうのです。この譬え話の中で、「澄んでいる」という言葉は「健全である」という意味であり、「濁っている」という言葉は「病んでいる」という意味を含んでいます。また「澄んでいる」という言葉には「二重に見える」と言うときの「二重」に対する「一重」、一重という意味も含んでおり、「ただ神のみを求めて見る」という意味も重ね合わせられています。“もしも目が邪悪であって、神のみを一身に求めることなく別のものを求める者であるならば、神の栄光に与ることはできず体全体も暗くなってしまふ”ということです。“だからこそ、私たちの体の中にある光が消えていないか調べなさい”とイエスは言います。私たちの中にある光は、神のもとから発せられている光なのですから、それが消えて暗闇になっているならば、私たちは動くことも何をすることも出来ないのです。私たち自身が神の光を一心によく見続けることによって、神の栄光を受け、私たち自身の中にある光は輝き続けることができるのです。神の光はイエスによってもたらされた神の救いの光です。それが自分自身の中に宿り、それを輝かせて生きているかどうか調べ吟味することが、信仰が私たち自身の中に宿っているかどうかを吟味することに繋がるのです。もしも私たち自身の全身が神への信仰で満たされているならば、「灯」がその「輝き」で私たちに照らす時のように、全身が神への栄光に輝いていることになるのです。

光はほんの小さなものであっても遠くからわかるものであり、それは私たちが暗闇の中を歩く時の助けとなるものです。私たちがしばしばどうしてよいか分からないような状況に置かれ思い煩い、自らが進むべき道を見失ってしまいます。そのような時に、神に祈って救いを求めるのであれば、たとえどんなに小さな光でも見るができるでしょう。しかし私たちは

そのような時に限って自らの力に頼り、自らの考えにとらわれ、そして、まるで光が自分の内から発しているような錯覚に襲われて、その見える筈のない光を求めて歩んでしまい、愚かにも道を間違ってしまうのです。人間を真実に救済することができるのは唯一人、神のみです。その神によって与えられる光を受けて歩む者こそ「全身が明るく、少しも暗いところがない」者、すなわち、「神によって罪を赦され、その救いの中に入れられた人間だ」ということができるでしょう。

ニネベの町の人々は預言者ヨナを通して神からの言葉を聞き、悔い改めへと導かれ神に立ち返りました。南の国の女王は遙か遠くを旅してソロモンの知恵ある言葉を聞き、そのことに驚き感心しました。彼女はその言葉を聞くために費用をも労力をも厭わなかったのです。しかし、^{よこしま}邪な今の時代の者たちは自分たちの目の前にイエスがいて、その言葉を直接聞くという素晴らしい機会を得ていながら、それを無駄にし、ある者は聞く耳を持たず、またある者はイエスに対して敵意の籠った言葉すら吐いたのです。だからこそ、ニネベの住人たちも、シエバの女王も、審判の場では不信仰に固執して、イエスをキリストと認めず退けた今の時代のユダヤ人たちは罪に定めるのです。

では私たちはどうしたら救われるのでしょうか。それはただ、神から与えられる救いの光を受けて輝くことです。かつての人は目が光を発する場所だと考えました。しかしそうではありません。目は月が太陽の光を受けて輝くように、他からの光を受けて輝きます。それと同じように、私たち人間も、神からの救いの光を受けて輝くこと、そうすれば私たちも救われることができるのです。果たして自分は神からの救いの光を受けて輝いているだろうか。そのことを自分自身で確かめること、その必要性を「あなたの中にある光が消えていないか調べなさい」という言葉でイエスが語っています。

さあ皆さん、夫々に自己吟味をしてみましょう。“神からの光を自らの身の内に輝かせているでしょうか”、その救いの光を掲げ、この一週間も、私たちは神からの御言葉を携え共に歩んでいきましょう。共に祈りましょう。

神さま、私たちは神さまからの救いの光を受けていながら、それを自らの身の内に輝かせて生きていることをしているでしょうか？ 私たちはそのことを自分でよく確かめ、そして、その光によって救いを得て歩んでいきたいと願います。

どうぞ、神さま、これからも私たちが救われるために、あなたからの光で輝かせてくださいますように。この祈り、主イエス・キリストの聖名を通して御前にお届けを致します。アーメン。

讚美歌:573「光かがげよ、神のみ民よ」

聖晩餐 使徒信条の告白 和解の挨拶

讚美歌:81「主の食卓を囲み」

献金・感謝(高橋智津子)・主の祈り(讚美歌21 93-5A)

聖なる神さま、あなたの聖名を賛美致します。私たちは今朝、御堂において、またライブ配信で、大谷昌恵牧師より命の言葉を戴きました。そしてまた、聖餐の恵みに与ることもできましたことを心より感謝申し上げます。私たちは、言葉、心、行いはいづれも拙く貧しいものです。失敗も多くあります。そのような中でも私たちはあなたから多くの恵みを戴き、信仰生活を歩むことができいております。福音を伝えること、隣人を労わることなど、神さまから受けた賜物を用いることができますように、どうぞ、

お導きください。

私たちは、神さまから多くの物を戴いております。その一部をお返し致します。今日は世界聖餐の日、また世界宣教の日であります。どうぞ、これらの物がその働きのためにお用いください。そして、私たちの行いが、御心に叶いますようにお祈り致します。

あなたが教えてくださいました『主の祈り』を共に祈り、この一週間を守り導いてくださいますように。「主の祈り」…アーメン。

派遣：讃美歌 89「共にいてください」

派遣と祝福 <司式：主は言われます。「私は誰を遣わすべきか。 会衆：私がここにおります。私を、お遣わし下さい。司式：「父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」と主は言われる。キリストの平和の使者として行きなさい。>

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の豊かな交わりが、私たち一同の上に永久にありますように。アーメン。

報告：(1)修養会申込案内、(2)後奏後、10/11(土)開催『スィンティ・ジャズ・ライブ』日本ツアー東京公演の案内、関係者紹介と挨拶。

後奏：「義しき神、恵みの泉」(J.S.バッハ)